



2019 伊賀川プロジェクト

伊賀川を花で彩り  
地域をつなぐ!

伊賀川プロジェクト(地域をつなぐ生徒会活動)

今年も地域をつなぐ活動として、伊賀川プロジェクトを実施しています。  
堤防の草を刈りながら、3年生が5月に彼岸花を、2年生が10月にスイセンを植え、1年生は11月にチューリップを伊賀川の堤防に植えます。昨年から一家庭一支援の活動として、保護者の皆さんにも協力をいただいています。  
毎年、9月、3月、4月。それぞれの花が伊賀川の堤防を彩ります。



発行所  
岡崎市立葵中学校  
(電話 21-0171)  
(FAX 21-0172)

10月号

ルールを知らない私が、80分間のスポーツ中継にくぎ付けになった。  
10月13日、ラグビーワールドカップ、対スコットランド戦。決勝トーナメントへの進出をかけた大一番。まさにその1戦だ。

そもそもラグビーに関心がない私は、その時間、何気なくTVのチャンネルを合わせていた。しかし、目の丸を背負って激しく戦う選手の姿に、ドンドン引き込まれていった。

にわかファンで誠に恐縮だが、私



\*立ち上がれ自分!

校長 都筑 祐一

は確信した。ラグビーには、世界をつなぐ力と、ぶつかり合いの美学がある。

まずは、国際色豊かなチーム構成。日本代表に多くの外国人がいるという違和感は、私のなかで納得に変わっている。ラグビーは、当該国で3年以上居住すれば、その国の代表選手になることができる。

私は、このハードルの低さが、国境を越えて手をつなぐことの大切さを教えてくれているように思えてな

らない。

試合前に君が代を全力で歌う姿。そしてNZ出身のキャプテン、リーチマイケルへのリーチコール。もうこれだけでラグビーのもつ広い世界観が十分伝わってくる。

そして圧巻は、ラグビーの精神、ノーサイドだ。試合終了後、両国の選手が、互いに労いの花道を作って拍手で迎えたり、危険プレーをした選手が直接相手に謝罪したりする姿。本当にいいシーンだった。

タツクルと言う名の突撃。スクラムと言う名の肉弾戦。ぶつかり合うことを認めた激しい戦いだからこそ、勝ち負けを超えて互いを称え合う姿は美しい。まさにこれこそが、ぶつかり合いの美学なのだ。

令和の時代を迎え、日本は大きく変わろうとしている。その1つが、外国人生徒の急増だ。今、愛知県には日本語教育を必要とする児童生徒が、1万1千人いる。市教委も今春、日本語初期指導教室を南中学校に開設した。本校2年の王さんは、10月、その教室を卒業したばかりだ。

文化も、考え方も、生活様式も、常識さえも違う子供たちが、隣同士机を並べるようになる。私はこれからの時代、ラグビーがもつ世界観とその精神が、大事に思えてならない。



# 快進撃！新人戦！！

## 水泳部男子

一〇〇m平泳ぎ 優勝  
 五〇mバタフライ 二位  
 五〇m背泳ぎ 三位  
 四〇〇mリレー 三位

## 水泳部女子

二〇〇m自由形 優勝  
 五〇m自由形 三位

## 陸上部

女子砲丸投げ 優勝  
 男子一〇〇m 二位

## 剣道部男子

二位

## 剣道部女子

三位

## サッカー部

二位

## バスケットボール部

二位

## ハンドボール部

二位

## 野球部

三位

## 柔道男子

二位

## 中量級

優勝

## 軽中量級

優勝

## 仲間と走る

### 男子陸上部

三年生が引退し、新人戦に向けて夏休みから厳しい練習をしてきました。練習の成果もあり、リレーでは、決勝に進出することができました。

たくさんの人が、自己ベストを出し、大きく成長できた大会になりました。しかしここで満足せず、もっと上の大

会に出場できるようにさらに練習に励みます。

## 一秒1cmを大切に

### 女子陸上部

私たちは一秒1cmにこだわることを目標にし、練習をしてきました。大会では、私は一五〇〇mに出場しました。八位以内に入ってポイントをとり、少しでもチームに貢献したいという強い気持ちをもって走りました。結果、自己ベストを出し、ポイントもとることができました。チーム全体では、一人一人が、最後まで諦めずに走り、跳び、投げることで、団体で八位になることができました。

## 練習の大切さ

### 男子バスケット部

僕たちは新人戦が始まる一週間前まで自分たちの納得のいく練習ができず、不安のまま新人戦が始まり、コートでプレーしていました。

そして、甲山中学との決勝戦を迎えました。前半は、練習したことを生かしたプレーができ、十二点差がつかまりました。しかし、徐々に点数を縮められ、延長戦の末、一点差で負けました。この一点は、練習を信じ、試合でやり続けることができたことを表しています。これは一分一秒を大切に練習していきま



## 悔しい思い

### 女子バスケット部

新人戦での目標は優勝。私は、自分たちのバスケットがどれだけ通用するか楽しみにしていました。新チームになり、まだ数か月ですが、練習を積み重ね、試合に挑みました。

一回戦目は、自分たちのバスケットをすることができ、ゴールに積極的に向かい、勝利することができました。二回戦目、相手は一度戦い、負けたことがあるチームでした。私は、とても緊張し、不安になりました。そんなとき、仲間の声援が力になりました。しかし、結果は惜敗でした。負けた悔しさをばねに、強くなっていきたいです。

## チームメイトからの応援

### 男子テニス部

夏休みの間、僕たちはみんなで声を掛け合い、チーム作りに入れました。新人戦の目標であった決勝トーナメント進出を達成するために練習してきましたが、大会で結果を残してきた学校を相手にして、とても緊張していました。一試合目の一番手で試合をしたとき、二ゲームを連取されてピンチだったけれど、コートの外から応援してくれるチームメイトのおかげで、僕たちも二ゲーム連取することができました。結果は予選リーグ敗退だったけれど、次こそはチーム全員で戦い、勝てるように頑張ります。

## 忘れられない瞬間

### 女子テニス部

三試合目、矢作北。厳しい練習を一

緒に乗り越え、声を掛け合い、支え合ってきたこの仲間となら、決勝リーグ出場という目標を達成できると思います。

しかし、結果は負けてしまいました。それでも、全員が全力で声を出して盛り上げようとしていました。チームが一つになっっているように思いました。あの盛り上がりとみんなの前向きな笑顔は、私にとって忘れられない瞬間でした。

## 思いが通じた勝利

### 男子卓球部

予選リーグの三試合目。現在一勝一敗。

「この試合に負けると次がない。」そのことをメンバーで共有し、試合に臨みました。

試合はもつれ、二対二のフルセットになりました。僕たちはとても心配で、絶対に勝ちたいという思いで、大きな声で応援をしていました。最後の選手もしっかりと攻めるプレーができていました。結果は三対二の勝利。とてもうれしかったです。メンバー全員の思いが通じ、結果につながったと思いました。

## 次こそは

### 女子卓球部

私の心に残った試合は、甲山中戦です。翔南中に負けてしまい、勝たなければ、目標である優勝に近づくことが

できなかったからです。試合は、二対二になり、私が勝たなければ、チームは負けてしまうというプレッシャーの中で戦いました。先生の「自分のプレーに集中しろ。」というアドバイスと仲間の応援で、フルセットになりました。決闘でも勝ち切る事ができました。決勝トーナメントでは負けてしまい、目標は達成できませんでした。けれども、この悔しさを忘れずにこれから頑張っていきたいと思います。

### 緊張や不安の一回戦

野球部

ベスト4を目標に挑んだ一回戦、緊張しながら迎えました。試合への入り方がとても悪く、どうなってしまうのか不安でした。しかし、初回からみんなが打ち、つなぐところはしっかりとつなぐバッティングができて、自分たちのペースで試合を運ぶことができました。最終回、公式戦初勝利目前、今までにな



いくらい緊張しました。勝利の瞬間ともうれしかったです。新人戦を通して、目標だったベスト4を達成できたのも、仲間を励ます声やランナーへの指示など、チームとしてまとまったからだだと思います。

### 高みを目指して

男子剣道部

「絶対優勝」と臨んだ新人戦。決勝

トーナメント一回戦は、相手チームが優勢の状況で僕の順番が回ってきたにもかかわらず、引き分けてしまいました。仲間に助けられ決勝戦に進むことができましたが、僕が勝っていたら苦しい試合にならなくて済んだのに、と落ち込んでいると「大丈夫。気持ち切り換えような。」と、仲間が励ましてくれました。そのおかげで決勝は大差で勝ち、昨年に引き続き優勝旗を持ち帰ることができました。仲間とつかなだ優勝ですが、この結果に満足することなく反省点や課題を日々の稽古で修正し、高みを目指していきます。

### 勝利への一本

女子剣道部

「メーン」その瞬間、旗が上がりました。仲間や家族からの拍手が響き渡り、自分の一本だと気づきました。その後にもう一本とってみせる！と強い気持ちをもち試合に臨みました。

技の出し合いの中で相手の隙を探し、全力の一本を出した。「入った！」と思い、大きく残心を取りました。自分に一本を告げる旗が上がった瞬間、高ぶる気持ちを胸に、仲間のもとに戻りました。

日々の厳しい稽古に取り組んできたからこそ勝利があるので、次も上を目指していきます。

### 逆転勝利

ハンドボール部

二勝一敗で準優勝だった今大会、勝った二戦はどちらも後半での逆転勝

利でした。

僕たちは、エンジンがかかるのが遅く、前半ではなかなか波にのれませんでした。そこでハーフタイムにみんなが話し合い、ディフェンスのやり方を変えて後半に臨みました。すると徐々に相手のリズムが崩れ始め、僕たちのプレーができるようになってきました。点差が縮まり、逆転したときは、いちばん楽しかったです。

この二つの試合では、負けていても声を出し続けたことと、後半での作戦のおかげで勝てたと思います。

### 不安が楽しさに

バレーボール部

私たちは新チームが始まってから、基礎練習に励んできました。初めての大会である新人戦で、練習してきた成果を発揮して優勝することが目標でした。新人戦前日の段階で、練習してきたことが出し切れるかどうか不安がたくさんありました。しかし、プレーをする中で、長いラリーを制したときや、大事な場面での攻撃が決まったときに、練習してきたことが出せて、これまでの不安が楽しさに変わっていききました。

勝ち進むことはできなかったけれど、新人戦を通してチームの勝つことへの執着心が高まりました。これからもチームで一つになり、頑張っていきたいです。

### 強い水泳部を目指して

男子水泳部

新人戦は、どの学校よりも大きな声

援の中、全員が全力で泳ぎ切ることができました。

目標は総合三位で、結果は四位と悔しい思いもありますが、新チームでフリーリレー三位入賞を果たしたことは自信に繋がりました。全員で声を掛け合かけになりました。全員で声を掛け合かけ、仲間と競い合って個々のタイムを上げていけば必ず団体で上位が取れるチームだと実感しました。

全員が強くなるという気持ちで強い水泳部を目指して日々の練習に励んでいます。

### 仲間と共に

女子水泳部

三年生が引退して初めての新人戦。私たちの目標は六位入賞でした。先輩たちが引退して、普段の部活ではよくけんかや仲間割れがあったので、チーム一丸となって戦っていけるかとても不安でした。でも、本番では一人一人が仲間のレースを一生懸命応援でき、とても心が和らぎました。リレーのときも仲間同士励まし合い、涙を流す姿もありました。目標の六位入賞には届かなかったですが、「七位」というすばらしい結果を残すことができました。

明日からは新たな目標に向かって、普段の練習も仲間と支え合いながら、一歩ずつ頑張っていきたいと思えます。

### プレーは気持ち次第

ソフトボール部

私たちの新人戦での目標は初戦突破



仲間を信じて戦い抜き、優勝することができました。

この新人戦では、葵中の新たな歴史を作ることができました。この勝利は仲間を信じ合ったからこそできたことだと思えます。

仲間を信じて

サッカークラブ

僕たちは今までの先輩ができなかった優勝を目標にできました。優勝するために、日々仲間と意見を交わし、時にはぶつかり合うことで、チーム力を高めてきました。

そして決勝の舞台。今までとは違う緊張感で試合に入りました。0対1で後半を迎えましたが、誰一人諦めず、

### 仲間を信じて

サッカークラブ

結果は負けでしたが、練習してきたことが発揮できました。新人戦でできなかったことや他のチームから学んだことを次の大会までに行き渡すようにして、一戦に集中して勝利を掴み取りたいです。

## 令和元年度後期生徒会執行部

会長	三年二組
役員男子	三年六組 三年四組 三年二組
役員女子	三年二組 三年四組 三年六組
三年学年代表	三年四組 三年二組 三年七組
二年学年代表	二年七組 二年四組
一年学年代表	一年五組 一年一組

### 思いやり

生徒会長

僕は生活信条の一つ、「思いやり」の輪を葵中に広げていきたいです。僕自身も、募金を通して相手の気持ちを考え、行動できるように、思いやりの心を成長させることができたり、困っている子を助けたり、挨拶をしたりすることも思いやりの一つだと思います。

小さな思いやりを一人ひとりが積み重ねることによって、思いやりあふれる葵中を創ることができそうです。

全校生徒で協力して、この葵中をよい方向に動かしていきたいでしょう。

## 表彰の記録

県ジュニアオリンピック大会	三〇〇〇m	二位
市民陸上	男子三〇〇〇m 男子三〇〇〇m	優勝 二位
男子砲丸投		二位
女子走幅跳		二位
女子一〇〇mH		三位
市民バスケット		優勝
バスケット男子		優勝
市総合ハンドボール大会		二位
ハンドボール部		二位
市民水泳大会		優勝
男子メドレーリレー		優勝

## 十一月の予定

二日(土)	文化祭
五日(火)	文化祭代休日
八日(金)	岡崎学力検査(三年)
十一日(月)	全校集会・教育講演会II委員会
一二日(火)	伊賀川プロジェクト(二年)
一五日(金)	公立高校説明会
一六日(土)	岡崎のハーモニー・県駅伝生徒集会
一八日(月)	期末テスト範囲発表
二二日(木)	期末テスト一日目
二六日(火)	期末テスト二日目
二七日(水)	期末テスト三日目
二八日(木)	ひまわりプロジェクト

## 葵が丘



### 適度なストレスを

校務主任 小玉 英次

みなさんは永田農法のトマト栽培をご存知でしょうか？永田農法のトマトは、普通のトマトより三〜五倍甘いとされています。永田農法とは、「断食農法」「スパルタ農法」「ルーツ農法」とも言われています。植物を育てるとき、毎日水をあげ、肥料も与えますが、永田農法では、必要最低限の水や肥料を使って植物が飢えるぎりぎりの状態に追い込み、植物本来の力を最大限に引き出します。つまり、植物にストレスを与えないようにするのはなく、あえて植物にストレスをかけ、通常より甘い美味しいトマトを作るといいうことです。美味しいトマトを作るには、適度なストレスが必要だと言えます。

このことは、人についてもいえるのではないのでしょうか。中学生は、心が大きく成長する時期です。勉強のことや友達のことや悩むことやストレスを感じることもあると思います。そんなときに我々大人にできることは、ストレスを取り除いてあげることではなく、子供たちがストレスを自分で乗り越えられるように手助けしてあげることではないでしょうか。子供が欲しがらなければ水を与えるのではなく、時には厳しく、その子がストレスを乗り越えられるように励まし、適度なストレスの中で子供たちが成長できるようにすることが大切だと思います。将来立派な実をつけるために！